

# 外気温感応型フィルムの効果確認試験

JA月形町

(株)ノザキフラワー



FX①



03-FX②



調光①



調光②



調光③



調光④

## 試験目的

外気温感応型フィルムの効果確認

## 試験作物 及び品種

花卉(テマリソウ)

## 試験資材 及び数量(規格)

調光ライト(0.1mm×740cm×93m) 1枚

## 慣行資材

美サンランイースター、イースターUV

## 栽培方法

### 定植日

慣行区:4月15日  
試験区:4月15日

## 資材使用期間

4月15日～10月30日

## 試験区面積

540㎡

## 試験結果

### (1)作業性について(慣行品との比較)

展張は慣行品と比べ遜色はなし。

### (2)作物の生育状況または、収穫への影響

テマリソウは光があまり入らなくても良い花であり、もしかしたら調光の効果を確認しづらい作物。焼けなどがなければよい。

### (3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】: 外気温によって焼けや気温上昇を防ぐ。

【問題点】: コストが高い。

### (4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

通常、5～6年POを使用する。30棟所有しており、年5枚買うので強度や耐久性は必要としている。

1シーズンではわかりにくいですが、UVカット品は1シーズンで黒ずんだりするので、それがなければ問題ないと思われる。

### (5)促成・抑制効果について

今年は猛暑であり、収穫する7～8月に暑さで病気が出てしまい、作物が枯れてしまった。

慣行品は早く植えた関係もあって枯れがまだ少なかったが、フィルムの効果を確認しづらい年であった。

### (6)保温効果について

光のいるカーネーション、菊、スターチス、ユリなどは保温が求められる。今回の作物では保温は問題ないと思われた。

## モニター感想

今回の試験では光がそこまで重視されない作物であったことで、調光の梨地が良い作用をするかと思われた。実際には猛暑で期待した梨地が発揮されず、効果を実感できなかった。しかしフィルムに求めるのは強度と耐久性であり、試験品は問題ないように感じたため、来年は作物をハイブリッドスターチスに切り替え、効果を引き続き確認していきたい。

## JA担当者の感想(資材課 百澤係長)

試験ハウス内作物が光をそこまで必要としないものであったため、調光の効果が見えにくかった。日光による「焼け」が発生しやすい作物であれば調光の効果表れやすいと思われる。

試験区作物については夏の猛暑の影響で枯れてしまっているが、これは時期的な問題でフィルムによる影響ではない。

モニター生産者についてはスターチスも生産しているため、来期はスターチスで試してみたいとのこと。春先の温度が低い時期に日光が入ることでハウス内温度確保することで春先の成長を促し、夏には日光を抑え、ハウス内温度の上昇を抑えることが期待できると思われる。

今後の普及についてはコストの高さがネックになってくると思われる。

## 今後の使用について

継続して使用したい。